

天皇皇后両陛下の 行幸啓を奉送迎



窓を開けてお手振りされる両陛下

振る、全学挙
げての奉送迎

即位礼及び大嘗祭後、「神宮親謁の儀」に臨むため令和元年十一月二十一日から二十三日

日にかけて伊勢市をご訪問された天皇皇后両陛下。行幸啓に際し、本学園では三日間でのべ四千七百

名教職員、学生・生徒が参列し、奉迎・奉送を行った。日の丸小旗を振り、全学挙げての奉送迎と感想を話した。



令和となって初の河野学長による年頭講話に聞き入る学生たち

人としての成長を願う

令和二年 学長年頭講話

元号が令和に改まって初の、また河野訓学長にとっても就任後初めてとなる年頭講話が一月九日、記念講堂にて行われ、約三百名の学生が聴講した。

一愛読書から三つのメッセージ

冒頭、河野訓学長は、成人式を迎える学生らに向けて「皆さんの宝は『若さ』です。学生時代に自分の資質、希望をよく見極め、置かれている環境や国内外の動向をよく把握し、自らを活かせる道を選んでほしい」と激励の言葉を贈った。そして年頭講話として、学長が選んだ三冊の本から、三つのテーマにつ



熱く問いかける河野学長

いて語られた。一つ目は「有間皇子」。有間皇子は、孝徳天皇の皇子でありながら、謀略によって十九歳の若さで処刑された皇子である。『万葉集』に収められている、有間皇子が捕えられ紀伊国に護送される途中に詠んだ歌を紹介し、「誰しもやり遂げられなかったことはある。皆さんと同世代で政争に巻き込まれ、命を落とした皇子の無念をあなたはどうか感じるか。自分で考えてほしい」と問いかけた。

二つ目はドフトエフスキーの『罪と罰』から主人公の若者ラス

皇學館 学園報

第82号

令和2年2月



■注目記事

2面

神道研究所公開学術シンポジウム「皇位継承を考える」を開催
第2期 中期行動計画を策定

地域連携

3面

全国初！学生と8市町が
広報紙を共同制作

カルチャー&スポーツ/アカデミック

4面

大会新Vで出雲決定！
東海学生駅伝大会

5面

就職内定者ボイス

高中トピックス

6面

約200名が清掃ボランティア
新校友会役員が抱負 ほか

7面

皇學館高校・皇學館中学校
卒業生随想

インフォメーション

8面

履修証明プログラム受講者募集

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大 学

大学院 | 文学部 教育学部
専攻科 | 現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校

三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

橋本雅之教授が「古代歴史文化賞」、 板東洋介准教授が「サントリー学芸賞」を受賞



授賞式での橋本教授(左)と板東准教授

由について「古事記」や『日本書紀』を中心とする国家レベルの歴史ではなく、「風土記」の記す地方目線を通じて

古代歴史文化に関する優れた書籍を表彰する第七回「古代歴史文化賞」優秀作品に現代日本社会学部・橋本雅之教授の『風土記 日本人の感覚を読む』が選ばれた。同賞は島根、奈良、三重、和歌山、宮崎の五県が共同で主催。日本の古代世界について学術的基盤に立ちながらも一般読者にとって分かりやすく書かれた書籍(選定の直近三年度に初版で出版を对象としている。選定委員は受賞理由について「古事記」や『日本書紀』を中心とする国家レベルの歴史ではなく、「風土記」の記す地方目線を通じて

「儒学としての徂徠学と国学についてこれまでの諸見解を咀嚼しつつ、新たな角度から迫った力作」と高く評価。「副題が表すように、获生徂徠と賀茂真淵に共通する、自らの表現を試みる姿勢に『型』の思考を見出し、その『型』をめぐる問いを自ら引き受けようとする著者の姿勢が文体にも沁みわたった作品」とした。

多様な文化や神話・伝承を支えた村里レベルの歴史を探るうとする書。国文学者の視点から古代の人々の心性にも触れ、「風土記」の魅力を伝えている」と述べている。

第四十一回「サントリー学芸賞」に輝いたのは「徂徠学派から国学へー表現する人間」を著した文学部・板東洋介准教授。同賞は毎年、前年一月以降に出版された著作物を対象に選考し、広く社会と文化を考える、独創的で優れた研究・評論活動をした人に贈られる。「思想・歴史部門」での受賞となった本書について「儒学としての徂徠学と国学についてこれまでの諸見解を咀嚼しつつ、新たな角度から迫った力作」と高く評価。「副題が表すように、获生徂徠と賀茂真淵に共通する、自らの表現を試みる姿勢に『型』の思考を見出し、その『型』をめぐる問いを自ら引き受けようとする著者の姿勢が文体にも沁みわたった作品」とした。



左／『風土記 日本人の感覚を読む』KADOKAWA 本体1600円
右／『徂徠学派から国学へー表現する人間』ベリかん社 本体5500円



最近、Society 5.0(以下S5)という言葉を目にすることが多くなった▼狩猟社会が1、農耕社会が2、工業社会が3、情報社会が4で、仮想空間と現実空間を高度に融合させた未来社会が5なのだそうだ▼二十年ほど前にもユビキタス社会という概念が話題になったことがある。いつでもどこでも欲しい情報が手に入る超スマート社会のことだ▼昨年、志摩市の離島でインターネットモルを展開する大手企業R社がドローンによる商品配送の社会実験を行った。まだ、商業ベースでは採算が取れないということだが、未来社会は足元まで来ている。建物が林立する都市部では電気通信環境も課題となるが、地方では障害物が無い分、有利な展開が期待される▼地域に住み続けるための課題解決の手法は、こうした未来技術の活用も含めたものになっていくだろう。さらに、ビッグデータを利用するデータサイエンスに関する基本的な能力を学生時代に身につけておくことで、鬼に金棒となる。もともと、線形代数や微積の基本を学ぶ、と聞いたとたん、尻尾を巻いて逃げることにならないようにしたい。

本学と高野山大学が 連携協定締結



河野学長(左)と高野山大学の乾学長

今回の連携協定に至るきっかけは平成29年度、高野山大学に心理ケアコースが開設され、「臨床宗教師資格(日本臨床宗教師会認定資格)」が取得できるようになったことに始まる。この資格は東日本大震災後、宗教関係者が葬儀等を通じて被災者の心のケアに関わってきた中で注目を集めた。認定する日本臨床宗教師会は多くの宗教の宗教家によって構成されており、有資格者は自宗派だけでなく、他の宗教の死生観・世界観も理解した上でケア活動に取り組むことになっている。

そのため、資格取得には科目「宗教間対話実習」が必修とされ、本学に年1回2コマ(90分×2)の協力要請があった。そこで本学は平成30年2月23日、松本丘教授(神道学科)、板井正斉准教授(教育開発センター)を担当教員として佐川記念神道博物館にて当該科目の開講に協力させていただいた。その後、開講が恒例化したため、教員の協力や教室の提供等をスムーズにするためにも両大学間で連携協定を締結してはどうかという話になった。

1月20日に行われた包括連携協定締結式で河野訓学長は「高野山大学と本学が教育や社会貢献活動など諸方面での連携を可能にする包括連携協定を結ぶことができますことに心より感謝」と述べ、「これまでの教育面での交流実績に加えまして、ゆくゆくは共同研究なども推し進められれば今後の密教研究や神道研究、ひいては日本の宗教史研究にも裨益するところが大きい」と期待を寄せた。

高大連携が活発化 高校生の探究活動を支援



令和元年11月19日、山口県下関市の梅光学院高等学校より、2名の女子生徒が本学を訪問した。これは、同校の大学等連携「卒業研究」プログラムへの支援要請に本学が応えたことで実現した。

当日は神事や土地による信仰の違いをテーマとした各生徒の研究計画のプレゼンテーションを受けて、神道学科の板東洋介准教授と教育開発センターの板井正斉准教授が講評し、活発な質疑応答と意見交換が行われた。学生食堂での昼食をはさんで佐川記念神道博物館の特別展を見学後、今後の研究の進め方について再度アドバイスをを行い、参考文献を紹介して終了した。生徒達は親身な指導により研究の貴重なヒントを得て、大きな励みとなった様子だった。

高等学校のこのような取組は学習指導要領の改訂により、令和4年度から「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に変更されることに先駆け活発化している。今年度は三重県内からも宇治山田高等学校、伊勢高等学校、津西高等学校より13組60名の生徒を9名の教員が受け入れている。本学としても高大連携の一環として、探究活動を今後とも積極的に支援していく予定である。



活発な意見交換がなされたシンポジウム

所功本学特別招聘教授が「皇位継承を考える―令和大礼の成果と課題―」と題して基調講演を行い、つづいて岡田荘司國學院大學名誉教授が「大嘗祭研究について―平成と令和の大嘗祭を終えて―」、藤森馨国士舘大学教授が「平安時代の神聖観」と題してそれぞれ発題を行った。

所氏は、「元号を改める政令」には新天皇が御署名になるべきであり、四月一日に新元号が発表されたプロセスについては課題が残ると述べ、また今後の高齢化社会と譲位のあり方についても問題提起をした。岡田氏は、これまでの大嘗祭研究を総括した上で、大嘗祭・斎宮制度・神宮式年遷宮は、いずれも天武天皇の発願によつて整備されたことに注目し、宮中祭祀と神宮祭祀の連動を考える必要があると述べ、藤森氏は平安時代の儀式書や記録に見られる「剣璽」の語について、詳細に検討する必要があると論じた。

基調講演・発題の後には、本学の佐野真人助教を司会に相互討論などが行われ、今後の皇位継承儀礼のあり方について、活発な議論が行われた。

天皇陛下御即位奉祝行事 国民祭典に 日本文化研究會がボランティア参加

私たち日本文化研究會はこの度、令和元年11月9日に皇居前広場で開催された「天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典」に運営ボランティアとして男子3名、女子3名で参加させていただきました。大変有難いことに、天皇皇后両陛下がお出ましになる二重橋の真ん前のエリアを担当させていただき、各地から続々とお越しになる方々を、お席に案内させていただきました。

都心にありながら、とても澄んだ空気の中で、夕日が沈み、天皇皇后両陛下がお出ましになり、両陛下と皆の提灯の灯りが燈されている情景を目の当たりにし、胸の中に温かいものがこみあげてきました。その場にいる皆の心も温かく包まれているように感じました。言葉では言い表せないのですが、その温かい気持ちをこれからも大切にし、次の世代へと伝えていきたいと思えます。

日本文化研究會代表 若山裕紀(国史3)



「大嘗祭を御奉仕して」

前宮内庁掌典職掌典次長 山田^{たかし}蓉先生が講演

令和元年十一月十八日、前宮内庁掌典職掌典次長の山田蓉先生を講師に迎え、「大嘗祭を御奉仕して」との演題で講演が行われた。山田先生は昭和四十三年に本学国史学科を卒業後、熱田神宮禰宜、宮内庁掌典職掌典次長等を歴任され、現在は神社本庁主催の研修会などで活躍されている。講演では大嘗祭に伴い陛下がなされること、とくに悠紀殿、主基殿におけるご様子が語られたほか、儀式の前には必ず「習礼^{しゆらい}」に臨まれ、所作や順番を確認されることや、「習礼」については歴代の天皇が行っていた記録が残されており、幼帝であつても摂政や関白が介添えするなど、いかに間違

いが許されないものかわかるといった話が語られた。聴講した饒平名^{へなな}有李さん(神道3)は「出身地の沖縄では宗教儀式を行うのは女性。講演で宮中祭祀は男性しか携わらないと伺い、興味深かった」と話した。掛川拓海さん(神道3)は「明治八年に規定された神社祭祀が宮中祭祀の影響を受けているという話が印象に残った。祭式の授業ではそのことにより思いを深め、精進してきた」と語った。



大嘗宮や儀式の様子について語る山田先生

令和 2 ～ 6 年度 第 2 期中期行動計画を策定

建学の精神に基づき、長期的展望に立った 戦略的ロードマップ

本学は「皇學館大学140教育研究ビジョン」達成に向け取り組んできた「中期行動計画」(平成27年度～平成31年度)の成果を踏まえ、新たに令和2年度からの「第2期中期行動計画」を策定した。立案にあたっては先の「中期行動計画」を精査したうえで、「学修者本位の教育への転換」「時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力をもって社会を改善していく資質を有する人材」など、中央教育審議会等で示された展望についても念頭に置いた。これらを踏まえ、策定されたのが次の事業である。

大学部門

- I 大学教育の「学び」の質保証・学修者本位の教育への転換
- II 研究体制における多様性と柔軟性の推進
- III 学生の主体性、可能性を伸ばす学生支援
- IV 高大接続改革の推進
- V 地域貢献活動の充実・発展
- VI 組織・運営基盤の強化と情報公表

高等学校・中学校部門

- Ⅶ 建学の精神に基づいた、Society5.0を逞しく生きる人材の育成

養成する人材像

- 1 わが国の歴史と伝統・文化を深く理解し、それを基盤として、異なる歴史と伝統・文化を持つさまざまな世界をも尊重することができる。
- 2 神道精神に基づく高い倫理観と寛容な精神を備えている。
- 3 社会において必要とされる知識・技能と、課題解決のための思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力を備えている。
- 4 生涯にわたり学び続ける意欲を持ち、主体的に考え、自ら積極的に行動することができる。
- 5 地域・職域等社会の様々な領域において、身につけたコミュニケーション能力を用いて他者と協働し、中核的存在として貢献できる。
- 6 専攻する専門領域における基礎的かつ体系的な知識・技能を身につけるとともに、それを実社会において活用することができる。

全学的な教学マネジメントのもと、 確実に実行

これらを確実に達成するため、「第2期中期行動計画」では全学的な教学マネジメントの確立をうたっている。教学マネジメントとは「大学がその教育目的を達成するために行う管理運営」と定義される。本学では健全な組織運営のもと、常に評価・改善を図りながら教育・研究の質向上に取り組み、本学の歴史と伝統の継承を使命に我が国や地域の中核となる人材の養成・輩出をさらに推し進めていく。

Regional Collaboration
地域♡連携

伊勢市の藤本亨副市長が講演
令和元年度 伊勢志摩共生学



令和2年1月16日、伊勢市の藤本亨副市長が「伊勢志摩共生学～伊勢市の課題と取組～」と題し講演を行った。はじめに、CLL活動である「広報いせ」特集記事制作プロジェクトや伊勢おもてなしヘルパープロジェクト等を紹介。〈大学生はまちの応援団〉であるとして、学生の力がまちを元気にするきっかけになると熱く訴えた。続いて、少子高齢化や子育て支援、防災など市が抱える喫緊の課題に触れ、全国で初めてLINE公式アカウントから一時保育の利用登録や予約ができるシステムを導入したことや市内小学校での持ち帰り可能なタブレットPCの貸与、外国人観光客受入れ態勢の拡充、伊勢市オリジナル原付ナンバープレートの交付など、時代に沿った先進的な取組みについて語った。



令和初の
山室山参拝・参拝見学



学部・専攻科の学生1476名と教職員が参加しての山室山参拝及び参拝見学が令和元年11月26日に実施された。山室山参拝は神宮皇學館大學時代からの伝統行事であり、本居宣長の命日である11月5日（旧暦9月29日）にあわ



せ、毎年この時期に行われている。山間の凛とした空気が漂う中、参加者は宣長の奥墓を参拝。墓前にて入選歌が献詠された。

◆入 選 歌（抜粋）

大人が生き大人が眠りしこの地にて
我らは学ぶ先人の心 大平瑞姫（国文1）
皇神の日嗣の御子の知らず国
青人草は神代を思ふ 萩原稜登（神道2）
新しき御代を寿ぎ雨晴れて
天つ御空に虹はかけり 大島信生 教授

各学年の参拝・見学先

学年	学 部	参拝・見学先
1年	文 学 部	●山室山（参拝・献詠・講話） ●本居宣長記念館 ●斎宮歴史博物館
	文 学 部	●瀧原宮 ●丹生神社・神宮寺（丹生大師）
2年	教育学部	●二見興玉神社●金剛證寺 ●内宮（一般参拝）
	現代日本 社会学部	●神宮神田（車窓）●御塩殿神社 ●二見興玉神社●金剛證寺 ●おかげ座・神話の館
3年	文 学 部	●伊雑宮●海の博物館●金剛證寺
4年	文 学 部	●結城神社●三重県総合博物館
専 攻 科		●山室山（参拝・献詠・講話） ●松浦武四郎記念館●瀧原宮

全国初！学生と8市町が広報紙を共同制作
CLL活動は新たなステージへ



写真を多用し、若い世代の興味を引くデザインに。市町の枠を越え魅力スポットやグルメを紹介することで、交流人口が増える効果も

「ができました」

若い世代のパワーをエネルギーに地域が一体となって課題解決に取り組み、活性化につながっているCLL活動。今回の成果により市町の枠を越えた新たなステージに入ったといえよう。地域社会の発展により一層貢献すべく、さらなる拡充、展開を図っていく。

増井香苗さん（現日一）は「すべてが勉強になりました。中でも取材は質問するタイミングや会話をするような雰囲気

奇術部が
三重済美学院でマジックを披露

本学奇術部が昨年12月26日に障害児入所施設三重済美学院で開かれたクリスマス会に出演。からっぽの紙袋から次々とアイテムが飛び出たり、モノクロのサンタクロースが描かれたスケッチブックが鮮やかな色に染まるマジックなど華麗な技の数々を披露し、会場を沸かした。

演者の谷川奈穂さん（国文1）は「緊張してうまくできなかった部分もあったが、済美学院の児童部の方々からの握手や拍手、手作りのプレゼントをいただき、とても嬉しかった」と語った。打田楓茄さん（同）は「皆さんからたくさん



マジックショーを楽しむ子どもたち

竹内綾音さん（教育3）が
ご当地アイドルとして活躍中！

竹内綾音さん（教育3）が三重県ご当地アイドル「Rin☆Rin」のメンバー・立花あきとして活躍し、注目を集めている。

「Rin☆Rin」は平成28年に結成された、メンバー5人全員が三重県出身のアイドルグループ。

「地域に貢献しつつ人前に出ることが好きという長所を生かしたい」と語り、2期生募集のオーディションを受けた」と語る竹内さん。出演交渉からイベント会場の手配、衣装の制作まですべて自分たちで行っているため、行動力やチームワークが自然と身に付いたという。また、人に見られ、かつ評価がついて回るため、姿勢や身だしなみだけでなく、言葉遣いや礼儀作法を意識するようになったと話す竹内さん。「ファンの方やメンバーと接する中で、人との関わり



Culture & Sports
カルチャー&スポーツ

柔道・女子70kg級
高橋麻莉弥さん(教育1)が
東南アジア競技大会で優勝!

昨年フィリピンで開催された第30回東南アジア競技大会(令和元年11/30~12/11)において本学柔道部の高橋麻莉弥選手(教育1)がフィリピン代表として女子70kg級に出場。12月6日に登場した高橋選手は一本勝ちを含む対戦成績で優位に立ち、見事2連覇を達成した。今回は母国での大会とあって「プレッシャーを感じ、初戦は敗れてしまった。それでも諦めずに一本勝ちできたことがよかった」と語る高橋さん。「国際大会では、なかなか勝ちきる事が難しい。課題を持って練習に取り組み、国際大会で勝てるようにになりたい」と今後に向けて意気込みを語った。



母国大会で有終の美を飾る



大会3連覇並びに出雲駅伝出場を決め、胸上げされる日比勝俊監督

大会新Vで出雲決定!
東海学生駅伝大会

昨年十二月一日、第八十一回東海学生駅伝対校選手権大会が行われ、本学駅伝競走部Aチームが昨年樹立した大会記録を更新し、三連覇を成し遂げた。一枠しかなかった出雲駅伝の東海地区代表権も確保した。

三名が区間新、四名が区間賞

愛知県知多半島において十二月一日、第八十一回東海学生駅伝が開催され、本学は男子がA・Bの二チーム、女子が一チーム参加した。

例年に比べ風の影響が少なかった今回は序盤からハイペースの展開に。一区から区間新をマークするなど好スタートを切った本学は一・二・三・五区で区間賞、一・四・五区で区間新を記録する圧巻の走りでも一度も首位を譲ることなくゴール。昨年本学が樹立した大会新記録を三分一六秒も上回る三時間一三分五九秒で三連覇を果たした。この結果により令和二年開催の出雲駅伝への出場が確定した。

なお、オープン参加のBチームも三時間二分五六秒とオープンチームの最高記録を更新。女子チームも一時間三十分一六秒と昨年の記録を四分三秒も縮め、絶対王者・名城大学に続く二位という快挙を成し遂げた。

二区で二位以降を一分以上突き放した上村直也選手(教育3)は「いい走りができたの

井上貴斗さん(現日1)が
フェンシングで全国大会出場

1月9日から12日にかけて駒沢オリンピック公園体育館で開催された第27回JOCジュニア・オリンピック・カップフェンシング大会に井上貴斗選手(現日1)が〈ジュニア男子エペ〉枠で出場した。



同大会は日本オリンピック委員会及び日本フェンシング協会がジュニア強化対策の一環として開くもので、大会における優秀な選手を表彰するとともに将来国際大会で活躍できる選手の発掘・育成を目的としている。

高校時にフェンシングを始めたという井上選手。同大会では89位と悔しい結果となったが、「接戦で落とすなど詰めが甘かった」と早くも課題を見付けたようだ。来年からはシニアになり、よりハイレベルな環境になる。今後の活躍に注目だ。

「ふみくら倶楽部」を事例に
学生協働について三者が提言

本学附属図書館で平成28年2月にスタートした学生サポーター「ふみくら倶楽部」の活動を事例に、4代目代表の三木彩花さん(国文4)、図書館職員の井上真美さん、国文学科の岡野裕行准教授がそれぞれの立場から「学生協働」のあり方について、学術雑誌『図書館界』(通巻410号)に投稿し、掲載された。



左から岡野先生、三木さん、井上さん

論文によると「学生協働」は「学生を中心に据えた人と人との協力関係」を意味する。現在ふみくら倶楽部は、①附属図書館の活性化(学内活動)、②本や読書に関係する地域活性化を目的とした活動(学外活動)、③SNSでの情報発信の3つを並行して行っており、①は学生と図書館職員、②は教員や地域の人たちというように、活動ごとに協働相手を変えて取り組んでいる。まとめでは活動の成果を相互に共有し、責任を分散することで二者だけでは行き詰まる活動も、三者が寄れば道が拓ける可能性がより高まるとし、主役はあくまでも学生たちではあるものの、教職員が「学生と何がしたいのか」まで視野を広げる時期になってきたと結論づけている。

第81回 東海学生駅伝対校選手権 大会結果			
順位	大学名	記録	
優勝	皇学館大学A	3時間13分59秒	大会新
2位	愛知工業大学	3時間16分20秒	大会新
3位	名古屋大学A	3時間18分41秒	
4位	岐阜協立大学	3時間18分43秒	
OPEN	皇学館大学B	3時間21分56秒	Bの最高タイム
5位	中京大学	3時間23分25秒	
6位	東海学園大学	3時間28分17秒	
7位	静岡大学	3時間30分14秒	
8位	至学館大学	3時間32分19秒	

各区間の記録(皇学館大学A)			
区間・距離	氏名(学科・学年)	記録	区間順位
1区 8.5km	桑山楓矢(現日3)	25分32秒	区間賞(新)
2区 10.6km	上村直也(教育3)	31分05秒	区間賞(歴代2位)
3区 8.1km	鈴木翔也(教育2)	24分45秒	区間賞(歴代2位)
4区 8.3km	山下慧士(国史4)	25分41秒	2位(新)
5区 10.3km	川瀬翔矢(現日3)	31分29秒	区間賞(新)
6区 5.4km	金谷智顕(教育4)	16分55秒	3位
7区 12.3km	平山寛人(教育3)	38分32秒	2位

Academic
アカデミック



発表する大学院生の澤さん

や子どもたちを対象とした昆虫イベント

他国の人々と連携を図りたい。大学院二年 奥村雄暉

十一月十九日のワークショップでは中松教授が幼稚園・保育所、小学校、中学校、高校を対象に行っている出前講座の内容や手法、その教育効果や開発した教材について発表し、ノース・ウエスト大学や近隣諸国の大学教授らから熱心な質問や意見が寄せられた。二十日はアメリカ・ルイビル大学のマリー・バードン・ミラー教授による教育方法「アクションリサーチ」についてのワークショップに参加。二十一日、二十二日には中松教授と本学大学院生五名が学会にて口頭発表を行った。口頭発表では、それぞれ開発した昆虫を使った教材

今年、南アフリカ共和国やその近隣のナミビア、ジンバブエをはじめ様々な国の先生方と交流する中で、理科の授業における実験方法やその指導方法、学校現場での保護者対応の難しさなど日本と共通の教育問題を抱えていることが見えてきた。他国の教育事情を知ることによって日本の教育の実態がよく理解できるようになり、これからの日本に必要な教育とは何かを考えさせられる良い機会となった。今後、も自身の昆虫の研究を生かして、他国の人々と連携を図っていきたい。

川瀬翔矢さん(現日3)が
東海学生新記録を樹立
5000m▶13分36秒93 10000m▶28分26秒37



駅伝競走部のエース・川瀬翔矢選手が昨年11月17日の日体大記録会5000m、同月23日の八王子ロングディスタンス10000mで東海学生記録を叩き出した。いずれも約40年ぶりとなる歴史的な更新であり、令和元年日本学生ランク2位、4位という好記録でもあった。原動力となったのは「悔しさ」だ。満を持して臨んだ全日本大学駅伝。2区を任された川瀬選手は区間新となる力走を見せるも、13人抜きでトップに躍り出た伊藤達彦選手(東京国際大4年)の走り(区間賞・区間新)に圧倒される。「負けて楽しいな、まだまだだな、と逆に燃えてきました」。今後については「10000mは27分台、5000mは13分20秒台が目標。学生ナンバーワンランナーをめざしていきたい」と意欲を語る川瀬選手。さらなる飛躍が楽しみだ。



ノー・スウェスト大学(NWU)の先生方と。前列左から反時計回りに、澤さん、泰さん、Luiza de Sousa上級講師(NWU)、長嶋さん、奥村さん、畑野さん、Lloyd Conley教育学部長(NWU)、中松教育学部長

南アフリカ共和国で
生物学研究室が学会発表



内定者ボイス

早めの準備がカギともいえる就職活動。今回は教職、公務員の内定を獲得した先輩たちの声を紹介します。

① 志望理由 ② 役立ったサポート・成功の秘訣 ③ 先輩へのアドバイス

教職編

安田理利(国史)

【内定先】高等学校 地理歴史(三重県)



え等を教わった。③長い道のりであることを受け止め、時には家族や友人、先生方に甘えながら自分の意志を貫いてください。

西 祐人(教育)

【内定先】中学校 英語科(三重県)



① やりがいのある仕事に憧れた。教育実習で出会った生徒から「絶対先生になつてね」と手紙をもらい、より一層教員になりたいと思った。② 健康第一で睡眠時間を削りすぎない。教職支援室と倉志会を活用し、集団討論や面接練習など一人ではできない試験対策や心構

① 好きな英語の魅力を子どもたちにも伝えたいと思ったから。② 教職支援室での集団討論やディベート、個人面接指導が役

立った。③ 自信をつける。最後まで諦めなければ奇跡は起きる。

林 克樹(教育)

【内定先】小学校(三重県)



① 中学生の時の職場体験で園児に積み木の遊び方を教えた夢中になっていた。その時に子どもたちに教える楽しさ、やりがいを感じたのが教職をめざすきっかけとなった。② 教職アドバイザーによる論文や集団討論の指導をよく活用した。試験

① 警察官だった父の姿を見てきて、自分も県民のために働きたいと思った。② 就職支援室の方に面接練習を何度もやつてもらい自信が付いた。現役の警察官を招いての面接練習や説明会もあり、とても参考になった。県警が開催していたイベントにはできるだけ参加した。



山下 輝(国文)

【内定先】三重県警察

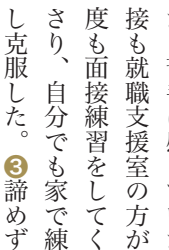
きだった。中学時の職場体験で幼稚園に行き、将来は子どもに関わる仕事に就きたいという気持ちになった。② 教職支援室の先生がピアノやダンスなど実技試験対策を何度

も行ってくれたので落ち着いて本番に臨めた。③ 勉強や部活動、ゼミ活動等、何かに一生懸命取り組みることが就職活動に繋がっていく。

公務員編

谷口 紗緒里(現旦)

【内定先】伊勢市役所



① 伊勢志摩自立圏共生学の授業で職員の方の話を聞き、公務員の仕事に興味を持った。② 就職支援室の方をたくさん頼った。自分だけでは考えがまとまらなかった時、一緒に



③ 活動開始が遅いほど後焦る。余裕をもつて始めることが大切。

辻井 麻伽(ミミ)

【内定先】四日市市役所



① 議員インターンシップでの議会傍聴などを通して四日市が抱える問題を知り、また音楽コンクールや地域イベントなど多様性のある取組に魅力を感じ、四日市のため、市民のために働きたいと思

永合真由香(教育)

【内定先】公立保育園(三重県津市)



① 小さい頃から年下の子のお世話することが好

小学生向けコミュニケーション力向上プログラム「Talk with smile ~笑顔で話そう~」を開催



活動内容が分かりやすいようにモデリング

コミュニケーション力が身に付く小学生向けグループワークプログラム「Talk with smile ~笑顔で話そう~」の第一回が十二月十四日に開催され、小学四、六年生十九名と学生らがゲームなどを楽しみながら賑やかな時間を過ごした。同プログラムはコミュニ

ケーション能力の向上が友だちとの良好な関係や授業の理解度につながるとして教育学部の渡邊賢二教授が企画。教員をめざす三十六名の学生がスタッフとなり、自己紹介ゲームや名刺交換ゲームを実施した。最初は緊張から口数が少なかった子どもたちも、学生が積



子どもたちと一緒に自己紹介の名刺作り

極的に話しかけ名前カードの作成を手伝ったりすると自然に打ち解け、笑顔が見られるように。相手に聞こえる声で話す、目を見ろといったコミュニケーションの基本だけでなく、コミュニケーションをとることで得られる楽しさや面白さも感じたと行われた。

だ。サポートした加藤理恵さん(教育4)は「子どもたちのコミュニケーションを通して、子どもたちの笑顔を引き出す方法を学ぶことができた」と語り、教員をめざす上で非常に貴重な機会になったと振り返った。なお、二回目が令和二年一月十一日、三回目は二月一日に開かれ、サイコロトークや共同絵画などさらにス

◆ 神社実習報告 ◆

どのような神社に奉職したいのか、考える機会に

熱田神宮

神道学科2年 千 蔵 富 貴



年末年始にかけ、授与品の奉製やお守りの授与を行いました。

授与の際は手が空くとお守りを「美しく」整えるのですが、このことが参拝者への心遣い、さらには神への心遣いになると教えていただきました。

今回、大きいお宮で実習させていただいたことで地域のお社とは異なる神職さんの動きや年末年始の様子が分かりました。今後、自身がどのような神社に奉職したいのか、考える材料にしていきたいと思っています。また、心遣いは普段から必要なことでもあるので、忘れずに生活していきたいです。

“追究する姿勢”が大切

八坂神社

神道学科2年 松 井 広 務



神職の方に神道や祭祀の原点について教わり、目に見えない存在をいかに敬い感謝できるかが基本であり、人としての根幹だと改めて感じました。京都が神道にとつて非常に重要な場所であり、都があつた当時、八坂神社(祇園社)がいかに信仰されていたかを肌で感じることもできました。

さらに、神道を学ぶ者として疑問を追究する姿勢、「なぜ」を常に持っている状態を保つことが肝要と教わりました。学生として知識を吸収するためにも「追究」を忘れず、人々に頼られる神道の専門家をめざしたいと思っています。

令和初の武道・バドミントン大会を開催

令和元年度の武道・バドミントン大会が昨年12月19日に実施された。剣道は日本剣道形の発表が行われ、柔道・バドミントンは気迫に満ちた熱戦が繰り広げられた。柔道部として参加した田村優我さん(総務委員長・2年7組)は「真剣に勝負をする中、対戦相手への気遣いも見られるなど礼儀を重んじる柔道らしい、とても良い大会でした」と振り返り、バドミントンに参加した井上花音さん(総務副委員長・2年4組)は「迫力ある試合ばかりで選手側も応援側も楽しかったです。負けた時は悔しかったですが、ペアの子との絆がさらに深まった良い機会になりました。3月に行われる今年度最後のクラスマッチに向けて、団結力を深めていってほしいと思います」と語った。試合結果は以下の通り。



バドミントン		柔 道	
優 勝	中西 未 空・安 立 亜 湖 (3-8)	優 勝	前 田 侑 音 (2-3)
準優勝	小 林 千 夏・杉 原 悠 月 (2-1)	準優勝	西 村 浩 太 郎 (2-4)
3 位	佐 藤 彼 方・野 崎 奈 那 子 (2-11)	3 位	大 井 悠 (3-7)
	谷 川 原 千 奈・中 村 き り (1-4)		床 辺 翔 太 郎 (2-3)

約200名が通学路を清掃



昨年12月6日、「通学路をきれいに」との校友会に呼びかけに応じ、およそ200名が倉田山球場周辺や伊勢病院付近など数カ所に分かれて清掃ボランティアを行った。冷たい風が吹きすさぶ中、落ち葉やペットボトル、雑誌などを拾い集めた生徒たち。クラブで参加した校友会総務委員長の田村優我さん(2年7組)は「普段何気なく歩いている道も注意しながら見るとたくさんのゴミが落ちています。フェンスの向こうや草やぶの奥などに意図して捨てられたゴミを見つけた時は悲しい気持ちになりました。通学路は多くの人が使う公共の場です。一人ひとりが気を付ければおのずときれいになっていくはず。私たちみんなで環境美化に努めていきましょう」と話していた。



百人一首大会総合優勝は2A

1月21日に新春恒例の百人一首大会が実地された。大会では20秒の暗記タイムに入ると会場は一気に静まり、選手も真剣な表情に。先生が和歌を読み上げるやいなや札を取る音や声が響き、応援席からは勝利した側のクラスカードが上がるたびに歓声が沸いた。クラス代表生徒による個人戦はハイレベルな戦いとなり、この大会一番の盛り上がりを見せ、みな惜しめない拍手を送った。

知識や技術を磨き合った成果

まさか総合優勝を取れるとは思っていなかったのですがとても嬉しかったです。これはクラスのみんながお互いに知識や技術を磨き合った結果なのだと思います。来年は僕たちにとって最後の大会なので、有終の美を飾って終わりたいです。

2A 山本拓実

優勝を実感した途端、涙

対戦相手は強そうなメンバーばかりで負けると思っていましたが、結果はまさかの優勝でした。応援してくれたみんなのおかげだと思います。本当に優勝したと理解したときは嬉しくて涙が出てきました。来年も出場したいです。

2B 石田幸輝



総合優勝	2年A組
総合準優勝	2年B組
個人優勝	内田 向日葵(1B)
	石 田 幸 輝(2B)



新・校友会本部役員紹介

中 ひなの (総務委員長) 総務委員長をさせていただくからには責任をもって務めていきたいと思います。演説で言ったことは必ず実現させます。生徒の見本となれるよう頑張りますので1年間よろしく願いします。

深 津 弘 季 (総務副委員長) 前年度に引き続き、校友会本部役員になりました。今まで経験してきたことを活かし、皇學館中学校をより一層良い学校にしていけるように頑張っていきます。

伊 藤 洋 一 (総務副委員長) これから1年間、総務副委員長という学校のリーダーの一員としてこの学校を引っ張っていき、公約の実現に努めていきたいと思っています!

梶 谷 風 太 (書記) 今回、初めて校友会の役員になるので不安なところもありますが、精一杯努力して、皆さんが望む理想の学校にしていけるように頑張っていきたいと思っています。

山中 美璃依 (書記) 書記、書記以外のいろいろな仕事を皆さんに不安を一切もたせないように、やり遂げていきたいと思っています。

中 山 翔 斗 (会計) 皇學館中学校の為に精一杯がんばり、皇學館中学校の良いところを皆に伝えられるように努力していきます。

伊 藤 晃 二 (会計) 生徒の代表の一員として、学校をより良くしていくために、できる限りを尽くしていきますので、よろしくお願いいたします。



前右左端から時計回りに深津さん、中さん、伊藤(洋一)さん、山中さん、中山さん、伊藤(晃二)さん、梶谷さん

井村風海大さん(3年)の「シュクダイオワラセール」が最優秀賞 第3回 U-16プログラミングコンテスト三重大会

昨年10月27日に開催された第3回 U-16プログラミングコンテスト三重大会で井村風海大さんの「シュクダイオワラセール」が最優秀賞に輝いた。開発のきっかけは夏休みの宿題を集中できず初日で終わらせられなかったこと。構想に1カ月、制作に1カ月をかけ、スマートフォンをしまつてロックできたり、途中で勉強をやめると親にLINEで通報するなど多彩な機能を盛り込んだ。1月24日には都道府県大会優勝者に贈られる「BCN ITジ

ュニアU-16賞2020」の表彰式に臨んだ井村さん。式典ではIT界の著名人とも交流し、ものづくりや若いプログラマーに対する熱い思いを感じたようだ。「“あったらいいな”という夢のマシンを実現できる」とプログラミングの魅力を話す井村さん。高校に進学後も続け、さらに大きな大会で受賞したいと抱負を語った。



授賞式での井村さん(左)

シンガポール・マレーシア修学旅行 報告

令和元年11月13日から17日にかけて、3年生がシンガポール・マレーシアへ修学旅行に赴いた。現地校交流で訪ねたマレーシアのパラゴン・インターナショナルスクールでは現地の生徒とマンツーマンで交流する機会を得た。日系企業を訪れた際にはオフィスマネージャーの方よりグローバル社会で生きるために必要な資質や能力、さらに中学生の時期にどのようなことを意識しながら学ぶべきかなど、国際的な視点から大変貴重なお話を伺うことができた。他にも、プライ村では伝統的な食事と文化を体験し、シンガポール大学生との市内散策では英語でコミュニケーションをとりながらバスや地下鉄を駆使して行動するなど、全日程を通して非常に濃密で有意義な時間を過ごすことができた。生徒たちにとってグローバル社会に必要な力を再確認するとともに、その一員としての自覚を高める素晴らしい旅行となった。 中学校第3学年主任 橋本真人

大変だった入国審査

両国とも行ったことのない国だったのでとても楽しみでした。英語が通じなかったらどうしようと不安だった学校交流は少しずつ話すうちに会話が成り立つようになり、楽しく過ごしました。シンガポール大学生とのグループツアーは大学生の英語がとても聞き取りやすく、慣れない私たちは助かりました。私がいちばん大変だったのはマレーシアからシンガポールへの入国審査です。指紋認証ができず、英語でいろいろ質問されました。時間がかかり焦りましたが、がんばって聞き取り、無事入国できほっとしました。今回の旅行では事前に決めた班行動を勝手に変えてしまうなど反省すべきこともあったので、それらも含め、今後に生かしたいと思います。 3A 大矢梨央

文化の違いが印象的

今回いちばん印象に残ったのはプライ村で感じた文化の違いです。プライ村ではカラフルな民族衣装を着せていただきました。メニューのカレーは普段食べているものとはずいぶん違い、ルーの水分が多く、とても辛かったです。これを右手の指先だけで食べることに悪戦苦闘しました。ずいぶん時間がかかり、唇だけでなく指先までヒリヒリと辛いような気がしてきておかしかったです。空港では自分ひとりで対応できたので自信につながりました。また、英語を使う場面がたくさんあり、もっと英語が話せるようになりたいという意欲が湧いてきました。何もかもが初めてだったけれど、たくさんのことを体験し、とても充実した修学旅行になりました。 3B 西井麻侑

皇學館高校
皇學館中学校

卒業生随想

この春、皇學館高校は346名、皇學館中学校は32名が卒業を迎える予定だ。彼らの胸に去来する思いを語ってもらった。

皇學館中学校

マイナーチェンジできた3年間

3年A組 大川 純 菜



私が中学生になる自分に最も望んだこと。それは「チェンジ」です。私には「どうせ」「無理」「出来ない」とまず壁を作ってしまう傾向がありました。そのネガティブな壁をぶち壊し、何事にもチャレンジ精神をもって臨むこと。それが中学校における大きなテーマでした。

まず自分に課したのは陸上部への入部です。正直、体験入部で行った軽い運動ですら私には苦痛で、「入部はしません」という言葉が何度も口から出かきました。入部してからもトレーニングの階段ダッシュは幼少期のトラウマから手すりにつかまりながらのゆったりとしたペースでないと上り下り出来ず、みんなに苦笑されました。でも私は「無理です」「出来ません」と口から出そうになる言葉を飲み込み、どんなにヘタでもまずはトライしてみることにしました。以前の私は人からの評価をとてき気にして行動していましたが、3年間の陸上部生活を通してたとえ無様でも努力することに意味があることを学びました。

この3年間で誇れるような記録は一つも出せませんでした。私なりに「マイナーチェンジ」くらいはできたと思います。次の高校3年間で「フルモデルチェンジ」をめざし、努力することを怠らず精進していきたいと思っています。

友情は瞬間に咲く花、時間が実らせる果実

3年B組 竹内 月 風



あつという間の中学校生活でした。この3年間、学校行事などみんなと協力して取り組むことが当たり前になっていったので、入学初日の「友だちづくり」という行事がとても懐かしく感じます。

私はすでに知っている人もクラスにはいました。しかし、全員男子ということで、女子の友だちができるか少し不安でした。でも、そんな不安も吹き飛ぶくらいすぐに周りの人たちと仲良くなれました。「友情は瞬間に咲く花であり、そして時間が実らせる果実である」という言葉は本当なんだと実感できました。

楽しいイベントである学校行事は準備に入る度に個人個人の意見のすれ違いや反発がたくさんありましたが、当日には全員が一丸となって取り組んでいました。高い壁を乗り越えられたのは、全員が協力したからだだと思います。そして辛いときに相談に乗ってくださった先生方や裏でアドバイスをくれたりはげましてくれた友だちには感謝しかありません。

これらをステップに、次の舞台へと歩んでいきます。



中学校第3学年主任 橋本 真 人

入学して間もない日、新入生オリエンテーションで君たち32名の前で最初に話した時のことを覚えてくれているだろうか。

「これからの中学校3年間で君たちが絶対学ばなければならないことがある。それは、やりたくなくても、やらなければならないことがある。やりたくても、やっではないいけないことがある」ということだ。

あれから3年たった。振り返ってみよう。君たちは、「やらなければならないこと」と「やっではないいけないこと」を正しく判断できただろうか？「やらなければならないこと」に一生懸命に取り組んできただろうか？「やっではないいけないこと」は絶対にやらなかっただろうか？多くの反省があるはずだ。この3年間で振り返り、もし過去の自分が、やらなければならないことから逃げ、あるいはやっではないいけないことをやってしまったのであれば、それを反省しそして自分を、自分の未来を変えて欲しい。

そう、私たち人間は反省ができる。自分の行動や言動が正しかったのかどうか、いつも反省し、まちがっていたのなら謙虚にそれを認め、次からは間違えずに正しい行動をしようと努力することができる。私たち人間は、過去を変えることはできないが、しかし過去を反省し過去に学ぶことによって自らの未来をより良いものに変えることができる。今こそその力を見せる時だ。

3年間君たちの大切な時間を共有できたことに感謝し、君たちの明るい未来を信じている。卒業おめでとう。

皇學館高校

充実した高校生活

3年5組 大東 海 晴 (前校友会総務委員長)



皇學館高校に入学してからの3年間は本当にあつという間に過ぎていき、気が付けば卒業を目の前にしてしました。この3年間で振り返ってみると、楽しかったこと、嬉しかったこと、苦しかったこと、辛かったことなど様々なことがありました。いちばん印象に残っているのは2年生の時の体育大会で綱引きをして優勝したことです。学年全体で喜び、とても盛り上がったことがすごく嬉しかったし、友人たちと何かをして喜ぶということがどれだけ幸せなことなのか、改めて実感しました。

校友会活動では自分が苦手としていた人前で話す機会が多くなり、乗り越えなければいけないこともたくさんありましたが、先生方や友人たち、在校生の皆さんの協力があったからこそ最後まで折れることなく活動できました。

在校生の皆さん、高校生活というものは長いようで短いものです。楽しい時ばかりではなく辛いときもありますが、その辛さをどうしたら「楽しい」に変えられるかを考え、仲間と協力し、もっと素晴らしい学校にしていってほしいと思います。そして悔いのない高校生活を送ってほしいと思います。

感謝の気持ちを忘れずに

3年9組 志村 茜 (前校友会総務副委員長)



皇學館中学校に入学して、あつという間に6年が経ち、卒業を迎えた私の中には、寂しさと新しい場所へ踏み出すワクワクが詰まっています。この6年間、私はたくさんの方々の優しさに触れることができました。その中で学んだことは、どんなに小さなことにも感謝するということです。

高校生になり、自分を大きく変えた出来事が2つあります。1つ目は校友会役員への立候補です。先生にすすめられ立候補し、総務副委員長になりました。もしもあそこで先生にすすめていただくことがなかったら、今のように充実した学校生活を送れていませんでした。校友会の一員になってからもたくさんの方々が応援してくださったおかげで、最後までやり通すことができました。2つ目は肩の手術です。怪我をするまでは選手として部活をしていました。しかし、スポーツができなくなり、その時に心の支えとなったのが仲間たちと私にマネージャーという役割を与えてくださった顧問の先生方です。おかげで自分の輝ける場所ができました。また、何の不自由もなく充実した学校生活を送ることができたのは、家族のおかげです。私は本当に色々な方の支えがあり、ここまで成長できました。感謝してもしきれません。

これから辛いことの方が多くなると思います。しかし、そんな時こそ、感謝の気持ちを忘れずにどんなことも乗り越えていこうと思います。



高校第3学年主任 林 浩 司

2019年ラグビーワールドカップに感動した。日本代表に海外出身の選手がいたことも理由のひとつだ。これまで国際化といえば、日本人が海外に行って海外の人と一緒に何かするイメージであった。この大会のように海外の人と一緒に日本で活動するところに、私は新しい国際化の形を感じた。

さて、本校の総合的な学習の時間において、キャリア教育と神道の二本柱で3年間学び実践してきた卒業生である。将来像を描き、常に目標に向かって挑戦してきたことを今後も継続して欲しい。また、この学び舎は伊勢にあり、素晴らしい文化と歴史を兼ね備えた地にある。世界中の人とともに訪れて欲しい。

今後、ますますグローバル化が進み、この日本で海外の人たちと一緒に仕事することになるだろう。皇學館で学んだ清明正直の心で輝き続けることを願う。そして、世界中の人々とともに幸せに暮らせることを祈る。

イベントカレンダー

各講座の詳細につきましては本学ホームページにてご確認ください。その他、お問い合わせは皇學館大学地域連携推進室(0596-22-8635)へお願い致します。

🕒時 📍所 (🔵本学 🔴他) 🎫料金 🧑対象 📅予約 🗨️問合先

2月

29 皇學館大学ふるさと講座
土 古代天皇と名張

講師●清水潔(本学学事顧問／名誉教授)
🕒14:30～16:00 📍名張市防災センター研修室
🎫無料 🧑一般 📅必要(先着順)定員100名
📍名張市教育委員会 文化生涯学習室
0595-63-7892

5月

14 熟年大学公開講座
木 令和御大礼の成果と課題

講師●佐野真人(研究開発推進センター助教)
🕒10:00～11:30
📍四日市市三浜文化会館2階 視聴覚室
🎫無料 🧑教養課程を修了済みの方 📅不要
📍市民文化部 文化振興課 059-354-8239

近鉄文化サロン阿倍野 共催講座

会場●近鉄文化サロン阿倍野

詳細は近鉄文化サロン阿倍野(06-6625-1771)へお問い合わせください。**有料・要予約**

4/18(土) 15:30～

1 日・短期講習会
皇室の基礎知識Ⅳ—天皇陵の歴史—

講師●松本 丘(文学部神道学科教授)

5/9(土) 15:30～

1 日・短期講習会
日本書紀の成立 神話と歴史

講師●遠藤慶太(文学部国史学科教授)

5/30(土) 15:30～

1 日・短期講習会
『日本書紀』と天武天皇

講師●荊木美行(研究開発推進センター副センター長／教授)

卒業式、学位記・修了証書授与式の日程

皇學館中学校 卒業式
3/14(土)10:00～◆皇學館中学校セミナーホール

皇學館高等学校 卒業式
3/2(日)10:30～◆皇學館大学 記念講堂

皇學館大学 学位記・修了証書授与式
3/18(金)11:30～◆皇學館大学 記念講堂
【祝賀会】卒業生のご家族の皆様もご参加いただけます
14:00～15:30 ◆総合体育館メインアリーナ

令和元年度
皇學館大学
卒業記念ミュージカル

夢の力をとりもどせ!
～令和のはじまりは旅のはじまり～

毎年好評の、教育学部4年生有志によるミュージカルショー。今年も学生によるオリジナルストーリーでお贈りします。
主人公と一緒に大冒険に出かけよう!

●予約不要●
●入場無料●
入場は先着順

津公演
2/29(土) 開場13:00 開演13:30
三重県総合文化センター 中ホール

伊勢公演
3/7(土)8(日) 開場13:30 開演14:00
皇學館大学 記念講堂

後援◆三重県教育委員会
伊勢市教育委員会
津市教育委員会

お問い合わせ
教育学学科研究室 TEL 0596-22-6458
教育学部 卒業記念ミュージカルサイト
http://education.kogakkan-u.ac.jp/musical.html

第59期 学友会が発足

この度、総務委員長に就任しました堀江翔太(神道2)です。学友会総務部は10名で活動しています。令和になって初めての就任式に参加でき



ることを総務部委員一同、光栄に存じます。今期の学友会では新たな試みと、先輩方が築いてきた歴史と伝統を守りながら、全学部学科学生が「唯一無二の学校生活だ」と感じてもらえるように、最善を尽くす所存でございます。私たちは、学生生活の質の向上として amenity の増進を行っており、第1弾として「学校施設の充実」と、第2弾では、現在企画中ではありますが「学生・教職員対象のスイーツビュッフェ」を考えております。学生と教職員がより濃く接することのできる環境を作ることと考えております。至らぬ点の多い総務委員長ですが、皆さんの力をお借りして皆で支えあう学友会を作り上げたいと思います。総務部員一同、1年間どうぞよろしくお願い致します。

令和2年度 皇學館大学 月例文化講座

聴講料無料・予約不要

年間テーマ 担当●コミュニケーション学科

令和新時代に求められるコミュニケーション
～コミュニケーション学科創設20周年を記念して～

時間●各日とも 午後2時より 場所●4号館 431教室

第1回 5月2日(土) 芳賀康朗 教授

ノンバーバル・コミュニケーションの役割

われわれホモ・サピエンスという動物は、体系化された記号表現、つまり言語をコミュニケーションの手段として日常的に用いています。しかし、言語以外の情報がより「雄弁」に他者にメッセージを伝えることも事実です。本講座では、視線、表情、ジェスチャーなどの非言語情報が対人コミュニケーション場面で果たす役割について考えてみたいと思います。

第2回 6月6日(土) 桐村 喬 准教授

新時代のコミュニケーションツールとしての地図
—ハザードマップと旧版地形図の読み方—

近年多発する、地震や津波、集中豪雨などによる災害への対策として、ハザードマップが重要であることはよく知られています。しかし、実際のところ、どのようにして地図から情報を読み取り、災害対策に役立てればよいのかは十分に理解されていない状況があります。本講座では、ハザードマップや過去の地形がわかる旧版地形図の読み方の解説を通して、現代のコミュニケーションツールの一つとしての地図を捉え直したいと思います。

第3回 7月4日(土) 玉田 貴裕 助教

言語の違いが物事の捉え方に及ぼす影響

人は生まれ落ちた社会の中で育ちながら、言語と同時に文化的価値観・世界観を身につけていきます。この文化的価値観や世界観はしばしば語句や文として慣習的に記号化され、人はその慣習的な記号の影響を受けて事態を認知しています。このことは言語の違いが物事の捉え方に影響を及ぼすことを意味します。本講座では、外国語の言語現象に注目し、日本語のそれとの比較を通して異文化と自文化への理解を深めていきたいと思います。

社会人に多彩な学びの機会を
履修証明プログラム受講者募集

平成19年に学校教育法が改正され、大学等による「履修証明制度」が創設されました。これは、社会人等を対象とした履修証明プログラムの修了者に対して、大学等が学校教育法に基づく履修証明書を交付できる制度です。本学では9コースの履修証明プログラムを開設しており、60時間以上の履修により各コースの履修証明書を授与します。

明浄正直コース	神道を理解する
方言研究ビギナーズコース	方言解明のための技法を学ぶ
日本史探究コース	歴史を学び直す
心理学コース	日常生活に役立つ心理学を学ぶ
文化と地域コミュニケーションコース	さまざまな文化とコミュニケーションについて学ぶ
教育基礎コース	基礎的な教育知識について学ぶ
地域と福祉コース	現代日本における地域の実情と福祉施策を理解する
現日スペシャルコース・ 人源輝業プログラム	日本の精神・伝統を理解し、現代の課題に取り組める能力を修得する
伊勢志摩で共に暮らす	地域資源と関連情報を生かした課題解決の方法を学ぶ

出願期間●令和2年3月5日(木)まで 受付時間 平日9:00～17:00
土曜9:00～13:00
※秋学期開講科目に限り、8月3日(月)～24日(月)の期間にも出願していただくことができます。

お問合せ 皇學館大学 学生支援部教務担当

〒516-8555 伊勢市神田久志本町1704番地
TEL 0596-22-6315 (教務担当直通)
https://www.kogakkan-u.ac.jp/placement/rishushoumei.php



第4回 9月19日(土) 高沢佳司 助教

令和を生き抜く感情コントロール方略

現代は「心の時代」と呼ばれ、我々はいかにして心の満足を得るかという問いに対する答えを模索し続けています。また他者の落ち度に対する不寛容性が際立つ時代とも言えます。本講座では、我々が令和新時代を迎えてより心安く暮らしていくための、最新の感情制御研究を紹介します。その中で、日常場面・職場等で有効な感情コントロール方略について実際に体験していただきたいと思います。

第5回 10月3日(土) クリストファー・メイヤー 准教授

海を渡った日本古典

戦国時代から今日に至るまで、数多くの日本の古典文学作品が外国語に翻訳されて海を渡りました。英語に翻訳された作品を読み進めながら、そこに潜む日本の文化と価値観を考察します。本講座では、新時代に於いてそれらがどのような魅力を持つのか、そして何が海外に伝播しているのかについて考えてみたいと思います。

第6回 11月14日(土) 中山 真 助教

対人関係とストレスの心理学

ストレスは深刻な事態にもつながりかねない厄介者ですが、ゼロにすることはできません。特に対人関係に起因するストレスは、人として生きる以上、避けることができないものです。それゆえ、ストレスとの上手な向き合い方を身に付けることが大切です。本講座では、対人関係やストレスの基本的な内容から、リラクゼーションなどの具体的な取り組みまで、体験的なワークも交えながら楽しく理解を深めていきたいと思います。

第7回 12月5日(土) 豊住 誠 教授

英語教科書からみる英語教育の変遷

令和3年度から、新しい指導要領に基づく中学校英語教育が始まります。それに伴い、教科書の内容も新しくなります。本講座では、昭和中期から平成を経て令和に至るまでの中学校英語教科書の内容を紹介しながら、英語教育がどう変わってきたのか、これからの令和新時代の英語を用いたコミュニケーションはどうあるべきかを考えてみたいと思います。

皇學館 31
人物列伝



にしみや かずたみ ●大正13年奈良県生。昭和17年神宮皇學館大学予科入学、廃学により京都大学へ転入学。昭和24年京都大学文学部国語学国文学専攻卒業。昭和37年皇學館大学教授。平成6年学長。192452007。

西宮一民

西宮一氏は、奈良県多武峯・談山神社の社家に生まれた。昭和十七年奈良県立奈良中学校を卒業後、神宮皇學館大学予科入学。入学式で山田孝雄学長が「大学教育を受けるにふさわしい学力と人格とがあると認められた」と述べた式辞は西宮の脳裏に焼きついたという。

昭和十九年、学徒出陣のため学部古典専攻へ繰上げ進学。敗戦後、GHQの神道指令によって神宮皇學館大学が廃学となったため、京都帝国大学へ転入学し、澤瀉久孝の下で上代文学・国語学を修める。池上禎造の試験が高得点であったことから、皇學館の名声を高めたという。昭和二十四年京都大学を卒業し、帝塚山短期大学などで教鞭をとった。

昭和三十七年皇學館大学が再興され、教授・国文学科主任として着任した。ときに三十七歳。皇學館の教授としてふさわしい研究課題として「古事記」を選んだ。

西宮の「古事記」研究の特徴は、漢字の訓の決定を「文脈」による

古事記研究の一頂点

とするものであった。また、割り当てられる訓が複数ある場合には、語源を中心に考えることで、核となる意味が明確になり、訓を決定することができるとした。

博覧強記ともあいまって研究成果は常に学界に裨益するところが大きかった。神宮皇學館大学予科時代の恩師・倉野憲司は学会で西宮説を批判することが多く、ある卒業生はそれを見て「西宮は倉野先生がそこまでむきになるほど偉い奴なのか」と言った。

西宮は自説への執着が少なかった。昨日発表した説が今日には変わっているということも珍しくはなく、おうふう版「古事記」は刷りごとに読みが変わった。朝令暮改のそしりも免れないところだが、よりよい説を求め続ける態度は終生変わらなかった。

上代文学の多くの弟子を育て、彼らは全国の大学で活躍している。平成六年学長。平成十二年名誉教授。教育研究功労により勲三等旭日中綬章を受章した。

国文学科教授 齋藤 平